



Sun Cluster 3.1 Data Service for SWIFTAlliance アクセスガイド

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 817-4848-10
2003 年 10 月, Revision A

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政事業庁が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DiComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されず、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: *Sun Cluster 3.1 Data Service for SWIFTAlliance Access Guide*

Part No: 817-3244-10

Revision A



040413@8606



目次

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のインストールと構成	5
Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のインストールと構成	5
Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access の概要	6
Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のインストールと構成の計画	6
構成上の制限事項	7
構成の要件	7
SWIFTAlliance Access のインストールと構成	8
SWIFTAlliance Access をインストールして構成する	8
SWIFTAlliance Access のインストールと構成を確認する	10
▼ SWIFTAlliance Access のインストールと構成を確認する	10
Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のインストール	11
▼ Web Start プログラムを使用して Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access パッケージをインストールする	11
Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access パッケージのインストール	13
▼ scinstall を使用して Sun Cluster に Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access パッケージをインストールする	13
Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access の登録と構成	14
▼ フェイルオーバーサービスとしての Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access の登録と構成方法	14
Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のインストールと構成の確認	16
▼ Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のインストールと構成の確認方 法	16
Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access 障害モニターの概要	17
リソースプロパティ	17
検証アルゴリズムと機能	17
Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のデバッグ	17
▼ Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のデバッグを有効にする	17

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のインストールと構成

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のインストールと構成

表 1-1 に、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のインストールと構成に必要な作業を示します。指定された順番どおりに、各作業を行ってください。

表 1-1 作業マップ: Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のインストールと構成

作業	参照先
インストールを計画する	6 ページの「Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のインストールと構成の計画」
Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access パッケージをインストールする	8 ページの「SWIFTAlliance Access をインストールして構成する」
インストールと構成を確認する	10 ページの「SWIFTAlliance Access のインストールと構成を確認する」
Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access を登録して構成する	14 ページの「Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access の登録と構成」
Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のインストールと構成を確認する	16 ページの「Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のインストールと構成の確認」
Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access の障害モニターを理解する	17 ページの「Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access 障害モニターの概要」
Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access をデバッグする	17 ページの「Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のデバッグ」

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access の概要

HA エージェントは SWIFTAlliance Access バージョン 4 およびバージョン 5 で動作します。SWIFTAlliance Access は DCE に依存するので、Solaris 対応の IBM DCE バージョン v3.2 ソフトウェアがインストールされている必要があります。SWIFTAlliance Access™ は SWIFT の商標です。

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access データサービスのメカニズムによって、Sun Cluster サービスの順序正しい起動、停止、障害モニター、自動フェイルオーバーを実行できます。次の Sun Cluster コンポーネントは、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access データサービスによって保護されます。

表 1-2 コンポーネントの保護

コンポーネント	保護するデータサービス
DCE デーモン	Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access

注 - HA エージェントが提供する障害モニターは、DCE コンポーネント専用です。したがって、SWIFTAlliance Access が停止した場合、自動的な再起動は行われません。この動作は、SWIFT から明示的に要求されたものです。Sun Cluster ソフトウェアに不慣れなユーザーは、クラスタ上で稼働していない場合と同様にこのアプリケーションを操作できます。HA エージェントは、起動、停止、フェイルオーバー、およびスイッチオーバーを実行します。したがって、ノードで障害が発生すると、他のノードでアプリケーションが自動的に起動します。

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のインストールと構成の計画

ここでは、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のインストールと構成の計画について説明します。

構成上の制限事項



注意 - 次の制限事項を守らないと、データサービスの構成がサポートされない場合があります。

ここで示す制限事項を考慮して、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のインストールと構成の計画を行ってください。ここでは、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access にのみ適用されるソフトウェアとハードウェア構成の制限事項を示します。

すべてのデータサービスに適用される制限事項については、*Sun Cluster* ご使用にあたってを参照してください。

- Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access は HA エージェントとしてのみ構成できます。スケラブルエージェントとして構成することはできません。
- SWIFTAlliance Access ソフトウェアは、グローバルファイルシステムにインストールする必要があります。フェイルオーバーファイルシステムを使用するのが最良です。IBM DCE ソフトウェアは、ローカルストレージにインストールする必要があります。

構成の要件



注意 - 次の要件を満たさないと、データサービスの構成がサポートされない場合があります。

ここで示す要件に従って、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のインストールと構成の計画を行ってください。これらの要件は、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access にのみ適用されます。Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のインストールと構成を始める前に、次の要件を満たしておく必要があります。必須パスレベルのインストールとソフトウェアそのもののインストールについては、SWIFTAlliance Access のインストールガイドに従ってください。

- **Sun Cluster** コンポーネントと依存関係 — Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access データサービスは、Sun Cluster インスタンスとそれぞれのコンポーネントを保護するように構成できます。以下、各コンポーネントとコンポーネント間の依存関係について簡単に説明します。

表 1-3 Sun Cluster と依存関係 (→ 記号で示す)

コンポーネント	説明
DCE デーモン	→ <i>SUNW.LogicalHost</i> リソース

表 1-3 Sun Cluster と依存関係 (→ 記号で示す) (続き)

コンポーネント	説明
SWIFTAlliance Access	→ <i>SUNW.LogicalHost</i> リソース → <i>SUNW.HAStoragePlus</i> リソース SUNW.HAStoragePlus リソースは、SWIFTAlliance Access システムのマウントポイントを管理し、ファイルシステムがマウントされるまでは Sun Cluster が起動しないようにします。 → DCE デーモン

Sun Cluster コンポーネントには構成/登録ファイルが2つあり、ファイルは /opt/SUNWscsaa/util に格納されています。これらのファイルによって、デフォルト値を使用して Sun Cluster に Sun Cluster コンポーネントを登録できます。

これらのファイル内では、適切な依存関係がすでに定義されています。リソースに別の名前を使用する場合は、saa_config ファイルを更新してから saa_register スクリプトを実行してください。

SWIFTAlliance Access のインストールと構成

ここでは、SWIFTAlliance Access をインストールして構成する手順について説明します。

このあとのセクションでは、SWIFTAlliance Access 用の特定のディレクトリへの参照が行なわれますが、これらのディレクトリはユーザーが選択できます。

SWIFTAlliance Access をインストールして構成する

次の手順で、SWIFTAlliance Access をインストールして構成します。

1. **SWIFTAlliance Access** 用のリソースを作成します。
 - **SWIFTAlliance Access** 用のリソースグループを作成する –


```
# scrgadm -a -g swift-rg
```
 - 論理ホストを作成する – DCE には論理ホストが必要です。両方のクラスタノードで、/etc/hosts ファイルにホスト名と IP アドレスを必ず追加してください。論理ホストを登録してリソースグループに追加します。

- ```
scrgadm -a -L -g swift-rg -j swift-saa-lh-rs -l swift-lh
```
- デバイスグループとファイルシステムを作成する — SWIFTAlliance Access 用のデバイスグループとファイルシステムを作成します。グローバルファイルシステムの作成手順については、『Sun Cluster 3.1 ソフトウェアのインストール』を参照してください。
  - **HAStoragePlus** リソースを作成する — グローバルストレージを使用できますが、できるだけ HAStoragePlus フェイルオーバーリソースを作成して、SWIFTAlliance Access アプリケーションと構成データを組み込んでください。例ではパスとして /global/saadg/alliance を使用していますが、任意の保管場所を選択できます。
- ```
# scrgadm -a -g swift-rg \  
  
-j swift-ds \  
  
-t SUNW.HAStoragePlus \  
  
-x FilesystemMountPoints=/global/saadg/alliance
```
- リソースグループをオンラインにする — リソースグループをオンラインにして IP アドレスを有効にし、ストレージにアクセスします。
- ```
scswitch -Z -g swift-rg
```
- 構成ディレクトリを作成する — SWIFTAlliance Access 情報を保管する構成ディレクトリを作成し、/usr からのリンクを作成します。
- ```
# cd /global/saadg/alliance  
  
# mkdir swa  
  
# ln -s /global/saadg/alliance /usr/swa
```
2. すべてのノードに **IBM DCE** クライアントソフトウェアをインストールする — SWIFTAlliance Access は IBM DCE クライアントソフトウェアを必要とします。SWIFTAlliance Access アプリケーションより先にインストールして構成する必要があります。
- **IBM DCE** クライアントソフトウェアをインストールする — ローカルディスクを使用してこのソフトウェアをインストールします。このソフトウェアは、Sun のパッケージ形式で配布されています。(IDCEclnt)インストールされたファイルは、システム上のさまざまな場所に置かれるので、グローバルファイルシステムにインストールすることは推奨できません。このソフトウェアは、すべてのノードにインストールする必要があります。
- ```
pkgadd -d ./IDCEclnt.pkg
```
- **DCE** クライアント **RPC** を構成する
- ```
# /opt/dcelocal/tcl/config.dce -cell_name swift -dce_hostname swift-lh RPC
```
- **DCE** をテストする
- すべてのノードでテストを実行します。
- ```
/opt/dcelocal/tcl/start.dce
```

dced デーモンが動作していることを確認します。

```
/opt/dcelocal/tcl/stop.dce
```

3. **SWIFTAlliance Access** ソフトウェアをインストールする — このソフトウェアのインストールには、共用ストレージを使用します。このインストール作業では、システムファイルを変更したあと、システムを再起動します。再起動後に、同じノード上でインストールを続ける必要があります。もう1つのノードでもソフトウェアのインストールを繰り返しますが、アクセス コードを指定する前にインストールを終える必要があります。
4. **SWIFTAlliance Access** のその他の構成 — クライアントがフェイルオーバー IP アドレスに接続できるように、SWIFTAlliance Access ソフトウェアのデータサブディレクトリに、`.alliance_ip_name` という名前のファイルを作成する必要があります。例と同じファイルシステムを使用する場合、ディレクトリは `/global/saadg/alliance/data` になります。ファイルには、SAA リソース内に設定された論理ホストの IP アドレスを指定する必要があります。

---

## SWIFTAlliance Access のインストールと構成を確認する

ここではインストールと構成を確認する手順について説明します。

### ▼ SWIFTAlliance Access のインストールと構成を確認する

次の手順で、インストールと構成を確認します。データサービスをまだインストールしていないため、この手順ではアプリケーションが HA として構成されているかを確認することはできません。

1. **SWIFTAlliance Access** アプリケーションを起動します。

```
su - all_adm
```

アプリケーションの GUI が起動します。DCE が起動していない場合は、GUI から起動してください。「OS Configuration」、「DCE RPC」、「Alliance」、「Start SWIFTAlliance Servers」の順に選択します。

2. アプリケーションをテストします。  
GUI を起動し、メニュー項目を「Alliance」、「Start User Interface」の順に選択します。
3. **SWIFTAlliance Access** アプリケーションを停止します。

GUI が起動していない場合は、GUI を起動します。

```
su - all_admin
```

メニューを「Alliance」、「Stop SWIFTAlliance Servers」の順に選択します。

---

## Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のインストール

Sun Cluster を初めてインストールするときに、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access パッケージをインストールしなかった場合は、次の手順でパッケージをインストールしてください。この手順は、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access パッケージをインストールする各クラスタノードで実行します。この手順を実行するには、Sun Cluster Agents CD-ROM が必要です。

複数のデータサービスを同時にインストールする場合は、『*Sun Cluster 3.1 10/03* ソフトウェアのインストール』の「ソフトウェアのインストール」に記載されている手順を実行してください。

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access パッケージは、次のどちらかのインストールツールを使用してインストールします。

- Web Start プログラム
- scinstall ユーティリティ

---

注 – Web Start プログラムは、Sun Cluster 3.1 データサービス 10/03 より前のリリースでは利用できません。

---

### ▼ Web Start プログラムを使用して Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access パッケージをインストールする

Web Start プログラムは、コマンド行インタフェース (CLI) またはグラフィカルユーザーインタフェース (GUI) のどちらでも実行できます。作業の内容と順序は、CLI でも GUI でも同様です。Web Start プログラムの詳細は、`installer(1M)` のマニュアルページを参照してください。

---

注 - CD-ROM がロードされているマシンにリモート接続している場合に GUI で Web Start プログラムを実行するときは、DISPLAY 環境変数が設定されていることを確認してください。この環境変数が設定されていないと、Web Start プログラムは CLI を使用して実行されます。

---

1. **Sun Cluster HA for SWIFTEAlliance Access** パッケージをインストールするクラスタノードで、スーパーユーザーになります。
2. **CD-ROM** ドライブに **Sun Cluster Agents CD-ROM** をロードします。  
ボリューム管理デーモン vold(1M) が実行され、CD-ROM デバイスを管理するように構成されている場合、CD-ROM は /cdrom/scdataservices\_3\_1\_vb ディレクトリに自動的にマウントされます。
3. **CD-ROM** の **Sun Cluster HA for SWIFTEAlliance Access** コンポーネントディレクトリに移動します。  
Sun Cluster HA for SWIFTEAlliance Access データサービス用の Web Start プログラムはこのディレクトリにあります。  

```
cd /cdrom/scdataservices_3_1_vb/components/SunCluster_HA_SWIFT_3.1
```
4. **Web Start** プログラムを起動します。  

```
./installer
```
5. プロンプトに対して、インストールのタイプを選択します。
  - C ロケールだけをインストールする場合は、「一般」を選択します。
  - その他のロケールをインストールする場合は、「カスタム」を選択します。
6. 表示される手順に従って、ノードに **Sun Cluster HA for SWIFTEAlliance Access** パッケージをインストールします。  
インストールが完了すると、Web Start プログラムがインストールサマリを提供します。このサマリによって、インストール中に Web Start プログラムが作成したログを表示できます。これらのログは、/var/sadm/install/logs ディレクトリにあります。
7. **Web Start** プログラムを終了します。
8. **CD-ROM** ドライブから **Sun Cluster Agents CD-ROM** を読み取り解除します。
  - a. **CD-ROM** が使用されないように、**CD-ROM** 上には存在しないディレクトリに移動します。
  - b. **CD-ROM** を取り出します。

```
eject cdrom
```

## 次の作業

14 ページの「Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access の登録と構成」に進みます。

---

# Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access パッケージのインストール

ここでは Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access パッケージのインストール手順について説明します。

## ▼ scinstall を使用して Sun Cluster に Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access パッケージをインストールする

次の手順を使用して、SC3.1 に Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access パッケージをインストールします。この作業には、Sun Cluster Agents CD-ROM が必要です。この手順は、Sun Cluster の初期インストール時にデータサービス パッケージをインストールしていない場合を想定しています。

Sun Cluster のインストール時に Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access パッケージをインストールした場合は、14 ページの「Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access の登録と構成」に進んでください。

それ以外の場合は、次の手順で、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access パッケージをインストールします。この作業は、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access データサービスを実行できるすべてのノードで行います。

1. **CD-ROM** ドライブに **Sun Cluster Agents CD-ROM** を挿入します。
2. オプションを指定しないで **scinstall** ユーティリティを実行します。  
scinstall ユーティリティーが対話型モードで起動します。
3. メニューオプション「新しいデータサービスのサポートをこのクラスタノードに追加」を選択します。  
scinstall ユーティリティーにより、ほかの情報を入力するためのプロンプトが表示されます。
4. **Sun Cluster Agents CD-ROM** のパスを指定します。  
ユーティリティーはこの CD をデータサービス CD-ROM として示します。

5. メニュー オプションの「q) 完了」を選択します。
6. 「他のデータサービスも表示しますか」という問いに **yes** を入力します。  
ユーティリティーはこの CD をデータサービス CD-ROM として示します。
7. インストールするデータサービスを指定します。  
選択したデータサービスが `scinstall` ユーティリティーによって示され、この選択内容の確認が求められます。
8. `scinstall` ユーティリティーを終了します。
9. ドライブから CD を取り出します。

---

## Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access の登録と構成

ここでは Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access の構成手順について説明します。

### ▼ フェイルオーバーサービスとしての Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access の登録と構成方法

次の手順で、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access をフェイルオーバーデータサービスとして構成します。この手順は、Sun Cluster の初期インストール時にデータサービスパッケージをインストールしている場合を想定しています。

Sun Cluster の初回のインストール時に Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access パッケージをインストールしていない場合は、13 ページの「`scinstall` を使用して Sun Cluster に Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access パッケージをインストールする」に進んでください。

それ以外の場合は、次の手順で、フェイルオーバーサービスとしての Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access データサービスを構成します。手順 1 から 6 は、通常は IBM DCE と SWIFTAlliance Access ソフトウェアをインストールするための準備として、すでに行われています。8 ページの「SWIFTAlliance Access をインストールして構成する」を参照してください。したがって、通常は手順 7 から実行します。

1. **Sun Cluster** のホストとなるクラスタノードの 1 つで、スーパーユーザーになります。
2. **SUNW.gds** というリソースタイプを登録します。

```
scrgadm -a -t SUNW.gds
```

3. **SUNW.HAStoragePlus** というリソースタイプを登録します。

```
scrgadm -a -t SUNW.HAStoragePlus
```

4. フェイルオーバーリソースグループを作成します。

```
scrgadm -a -g swift-rg
```

5. **Sun Cluster** ディスク記憶装置用のリソースを作成します。

```
scrgadm -a -j swift-ds \
-g swift-rg \
-t SUNW.HAStoragePlus \
-x FilesystemMountPoints=/global/saadg/alliance
```

6. **Sun Cluster** 論理ホスト名用のリソースを作成します。

```
scrgadm -a -L -j swift-lh-rs \
-g swift-rg \
-l swift-lh
```

7. **SWIFTAlliance Access** 用のリソースを作成します。

最も簡単な方法は、SWIFTAlliance Access HA エージェントに組み込まれている登録スクリプトを実行することです。このスクリプトを実行する前に、リソース名が `/opt/SUNWscsaa/util/saa_config` に設定されている名前と一致していることを確認してください。

```
/opt/SUNWscsaa/util/saa_register
```

8. **Sun Cluster** ディスク記憶装置と 論理ホスト名のリソースが組み込まれたフェイルオーバーリソースグループを有効にします。

```
scswitch -Z -g swift-rg
```

9. 手動で **SWIFTAlliance Access** インスタンスを起動します。

```
su - all_adm
```

```
The GUI will open up. From within the GUI, select the menu
```

```
Alliance - Start Alliance Servers
```

10. 手動で **SWIFTAlliance Access** を停止します。

```
su - all_adm
```

```
The GUI will come up. Stop the application from within the GUI.
```

11. 各 **Sun Cluster** リソースを有効にします。

```
scstat -g

scswitch -e -j Sun Cluster-resource
```

---

## Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のインストールと構成の確認

ここでは、データサービスが正しくインストールされて構成されているかどうかを確認する手順について説明します。

### ▼ Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のインストールと構成の確認方法

次の手順で、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access が正しくインストールされ、構成されているかどうかを確認します。

1. **Sun Cluster** のホストとなるクラスタノードの **1** つで、スーパーユーザーになります。
2. すべての **Sun Cluster** リソースがオンラインになっていることを **scstat** で確認します。

```
scstat
オンラインになっていない Sun Cluster リソースごとに、次のように scswitch
コマンドを使用します。
```

```
scswitch -e -j Sun Cluster-resource
```

3. **scswitch** コマンドを実行し、**Sun Cluster** リソースグループをほかのクラスタノード (*node2* など) に切り替えます。

```
scswitch -z -g swift-rg -h node2
```

4. **SWIFTAlliance Access** が最初のノードでは停止し、もう **1** つのノードでは再起動することを確認します。フェイルオーバーファイルシステムを使用している場合は、最初のノードからファイルシステムがなくなり、第 **2** ノードにマウントされます。

---

## Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access 障害モニターの概要

この情報は、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access 障害モニターを理解するうえで役立ちます。ここでは、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access 障害モニターのプローブアルゴリズムまたは機能について説明し、プローブの失敗に関連する条件、メッセージ、回復処理を示します。

障害モニターの概念については、『Sun Cluster 3.1 の概念』を参照してください。

### リソースプロパティ

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access 障害モニターでは、リソースタイプ `SUNW.gds` と同じリソースプロパティを使用します。使用するリソースプロパティの全リストについては、`SUNW.gds(5)` のマニュアルページを参照してください。

### 検証アルゴリズムと機能

障害モニターが検証するのは DCE デーモンだけです。SWIFTAlliance Access に組み込まれている実行可能ファイルは検証しません。これは Swift からの明示的な要求です。オペレータはクラスタを意識しないで、SWIFTAlliance Access を起動したり停止したりできます。

自動フェイルオーバーが発生した場合、通常は DCE に問題があります。SWIFTAlliance Access アプリケーションによるフェイルオーバーは、現在のノードで起動できなかった場合だけ発生します。

---

## Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のデバッグ

### ▼ Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のデ バッグを有効にする

ここでは、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のデバッグを有効にする方法について説明します。

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access は複数の Sun Cluster インスタンスで使用できます。デバッグは、すべての Sun Cluster インスタンスに対して有効にすることも、特定の Sun Cluster インスタンスに対して有効にすることもできます。

Sun Cluster コンポーネントごとに DEBUG ファイルがあり、`/opt/SUNWscsaa/etc` に格納されます。saa は個々の Sun Cluster コンポーネントを表す 3 文字の略語です。

これらのファイルによって、Sun Cluster の特定のノードで特定の Sun Cluster インスタンスに対してデバッグを有効にすることも、またはすべての Sun Cluster インスタンスに対してデバッグを有効にすることもできます。Sun Cluster 全体にわたって、Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access のデバッグを有効にしなければならない場合は、Sun Cluster 内のすべてのノードでこの手順を繰り返す必要があります。

#### 1. `/etc/syslog.conf` を編集します。

`/etc/syslog.conf` を編集し、`daemon.notice` を `daemon.debug` に変更します。

```
grep daemon /etc/syslog.conf
```

```
*.err;kern.debug;daemon.notice;mail.crit /var/adm/messages
```

```
*.alert;kern.err;daemon.err operator
```

```
#
```

`daemon.notice` を `daemon.debug` に変更し、`syslogd` を再起動します。次に示す `grep daemon /etc/syslog.conf` コマンドの出力例では、`daemon.debug` が設定されています。

```
grep daemon /etc/syslog.conf
```

```
*.err;kern.debug;daemon.debug;mail.crit /var/adm/messages
```

```
*.alert;kern.err;daemon.err operator
```

```
#
```

```
pkill -1 syslogd
```

```
#
```

#### 2. `/opt/SUNWscsaa/etc/config` を編集します。

`/opt/SUNWscsaa/etc/config` を編集し、`DEBUG=` を `DEBUG=ALL` または `DEBUG=resource` に変更します。

```
cat /opt/SUNWscsaa/etc/config
```

```
#
```

```
Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
```

```
Use is subject to license terms.
```

```

Usage:
DEBUG=<RESOURCE_NAME> or ALL

DEBUG=ALL
#
```

---

注 - デバッグを無効にするには、この手順を逆に実行して下さい。

---



# 索引

---

## C

C ロケール, 12

## S

scinstall, 13

## V

/var/sadm/install/logs ディレクトリ, 12

## W

Web Start プログラム, 11

## い

インストール

DCE, 9

Sun Cluster 3.1, 13

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access

Web Start プログラムを使用, 11

作成されるログファイル, 12

インストール1, SWIFTAlliance Access, 8

## こ

構成

DCE, 9

SAA のディレクトリ, 9

Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access の

登録, 14

SWIFTAlliance Access, 8

確認, 10

制限事項, 7

要件, 7

コマンド

scrgadm, 14, 15

scstat, 16

scswitch, 15, 16

## し

障害モニター

概要, 17

検証アルゴリズムと機能, 17

リソースプロパティ, 17

## て

テスト, DCE, 9

デバッグ, 有効にする方法, 17

## ふ

ファイル, インストールログ, 12

## り

### リソース

SUNW.HAStoragePlus, 15

SWIFTAlliance Access, 15

論理ホスト, 15

リソースグループ, 8, 15

論理ホスト, 8

リソースタイプ

SUNW.gds, 14

SUNW.HAStoragePlus, 15

## ろ

ログファイル, インストール, 12

ロケール, 12